



公明党自動車議員懇話会のヒアリング

税制に反映させていきたいと思っています。

○谷公一・団体総局長（衆議院議員）

兵庫選出の私は、飛行機も新幹線もよく利用させていただいていることもあり、特に運輸関係がコロナ禍で大変な状況にあることは詳細に把握しているつもりです。また、今年の税制の議論の一つの柱が車体課税であることは間違いありません。皆さんの要望に応えられるように、われわれもしっかりと受け止めて頑張っていきたいと思っています。

○平口洋・国土交通部長（衆議院議員）

本日はトラック、バス、タクシー、自動車関連、鉄道、そして航空と、われわれの“足”を担当いただいている分野の方々にお集まりいただきました。コロナ禍で大変な状況にあり、われわれも最後

まで皆さんと同じ気持ちで要望実現が図られるよう努力し、コロナを克服していきたいと思っています。

※津島淳・運輸・交通関係団体委員長（衆議院議員）はほか会合の都合で途中から出席。

◇**公明党：自動車議員懇話会**（11月13日、衆議院第一議員会館）＝日本自動車工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、日本自動車会議所

《主催者代表挨拶》

○井上義久・自動車議員懇話会会長（衆議院議員）

日本経済の最も重要なプレーヤーである自動車産業、そして国内生産をどう維持していくのか。この観点から、コロナ禍をどう乗り切るのか、皆さんからさまざまなご意見をお伺いし、しっかりとクルマが売れるように頑張っていきたいと思っています。

○西田実仁・同懇話会副会長（参議院議員）

今年の税調の大きなテーマの一つが、車体課税です。とりわけエコカー減税の扱いをどうするのか。本日皆さまからいただいた要望や資料を念頭に、12月10日の大綱決定を目指して、しっかりと議論していきたいと思っています。すでに大綱に書かれている中長期的な車体課税のあり方についても、改めて大綱での書きぶりについて皆さんと調整していきたいと考えています。

コロナ禍の中、「ツイッター」へ投稿しユーザーに訴求

自動車税制改革フォーラム

10月下旬から毎週金曜日に計8回投稿

自動車税制改革フォーラム（事務局：日本自動車会議所）は、SNSを使ってユーザーに自動車税制の問題を訴求する活動を展開した。新型コロナウイルス感染拡大防止などのため従来のチラシ配布などによる街頭活動は見送り、今年はトライアルとして、今後の活動の展開も見据え、若者をはじめ広く一般にアピールできるツイッター（Twitter）を活用。10月23日から12月11日までの毎週金曜日、計8回の投稿を行った。10月～12月は、税制改正の議論やヒアリング、要望活動などが活発に行われる時期。クルマの税金がいかに高く、“Tax on Tax”や二重課税など不合理な仕組みが続けられているかな



どを、イメージキャラクターの「カー太くん」がフォーラムを代表して訴えた。